



# 海老沼小だより

～ かしこく やさしく たくましく生き抜く子  
笑顔と歌声あふれる学校 ～

平成29年9月28日

10月号

さいたま市立海老沼小学校

## 秋深し・・・平和の尊さを考え、子ども達の成長に感じ入る

校長 森 裕子

2学期も1か月が過ぎ、秋の気配が深まってきました。秋は、気候の過ごしやすさからか「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」などと称されます。また、松尾芭蕉の「秋深し隣は何をする人ぞ」という有名な俳句もあります。本来の意味とは異なるかもしれませんが、私の中では「秋という、様々なことに取り組むのにピッタリ！の快適なこの季節、他の人はどんなことをするのか～」というイメージです。さて海老沼小の秋は、9月号でも紹介した「平和おはなし会」がありました。本校で長きにわたって読み聞かせのボランティアをしてくださっている名倉 幸子様は、終戦当時、墨田区にお住まいでした。そして、東京の建物の4分の1が焼かれ、10万人近くの方が命を奪われ、その他、けがをした人や大切なものを傷つけられたことまで入れれば本当にすさまじい被害となった東京大空襲を経験されました。名倉様はやさしい口調でわかりやすく、そして平和への願いをこめて力強くお話ししてくださいました。当時女学校1年生15歳だった名倉様は、川から引き揚げられたたくさんの遺体を目の当たりにし、「怖いとか、気持ち悪いとか、そんなふうには感じませんでした。悲しい出来事なのですが、不思議と涙も出ず、ただ茫然と見ている感じでした。」とお話しされました。そのような光景の中、名倉様の心中を思うと言葉には言い表せないやるせない思いがこみあげました。また、同じく読み聞かせボランティアの松本福太郎様は、1・2年生に「かわいそうなぞう」という絵本を読んでくださいました。戦争中に動物を飼うことが許されず、動物園の象も殺すことに…。餌も水も一切与えずに、大切な象を死においやっていく飼育員の方々の苦悩…。餌をもらいたくて、弱った体で必死に芸をみせる象…。つらいお話しでした。飼育員が耐え切れなくなって「戦争は、もういやだ！！」と叫ぶシーンは、本当に胸の奥が痛くなりました。おはなし会の最後に4年生の代表の男の子がお礼と共に「平和は大切なものです。ぼくは、今日、とてもそう感じました。そしてこれから、家族や友達、いろんな人をもっともっと大切に生きていこうと思います。」と涙声で述べました。私は、初めの挨拶で「みんな、爆弾が落ちるかもしれないから、建物の陰にかくれて！」といきなり言いました。「だとしたら、本当にイヤだよ。大変だよ。今は、そんなことのない平和な世の中で、みんなの命が脅かされることがなくて本当によかったよね」とすぐに付け加えました。しかし・・・「爆弾が落ちるかもしれない」これは、昔の話ではなくなりつつあると思えるこの頃です。子ども達の笑顔、がんばり、絆、それを奪うようなことには決してならないでほしいと私自身も心の底から願う機会となりました。戦争がもたらす悲劇、平和であることの尊さ、そしてそれを維持する強い意志、この機会に子ども達の心に様々な思いがよぎったと思います。改めて、名倉様、松本様、貴重な機会をいただきまして本当にありがとうございました。



集中して話に聴き入る児童たち

さて、9月は運動会とともに去っていきます。いよいよ、数日後に迫りました。今日まで1年生から6年生まで、練習や準備に一生懸命取り組んできました。その姿をみるにつけ、感動とうれしさでいっぱいになりました。特に感心したのは、海老沼小では縦割りの活動が普段から充実していることもあり、3色対抗の応援合戦では、上級生が下級生の面倒をみながらいろいろ教えていき、とっても盛り上がっていることでした。もしかしたら、運動などが苦手だと思っている子もいるかもしれませんが、一つひとつの活動が子ども達を成長させ、笑顔にさせることにつながっていると確信しました。「運動会は、当日だけでなく、それまでの練習や準備も楽しもう。自分を伸ばし、友だちや先生との絆も深めよう。」そんなふうに声をかけてきました。これまで支えてくださったご家族や地域の皆様、本当にありがとうございました。おかげ様で、子ども達の最高の活躍がみられるすばらしい運動会になりそうです。ぜひともご来場いただきまして、応援等のご協力をよろしくお願い申し上げます。



高学年・低学年が一緒に応援練習